

# センター通信



## 子どもたちへの2つのお願い

伊丹市立東中学校  
校長 山下 貴志

今年の入学式の式辞の中で、新入生に2つのお願いをしました。一つは「ルールを守れる人になってほしい」、もう一つは「続けるものを持ってほしい」ということです。

ルールを守ってほしいという話の中で、「最近の大人社会で社会的なルールを守れない人たちが残念ながらたくさんいる。『近所の人に出会ってもあいさつができない』『電車やバスの中で、お年寄りや体の不自由な人に席を譲ることができない』など、昔であれば出来ていたことが、徐々にできない、しないようになってきている。」と伝え、子どもたちに、ルールを守らせるために書かれた一冊の本を紹介しました。私が数年前に勤務していた中学校で購入した「みんなのためのルールブック」という本です。

この本はアメリカの小学校の教師であるロン・クラークという方が書かれ、あたり前だけれども、とても大切な50のルールが書かれています。「誰であれ仲間はずれにしない」「お世話になった人にはお礼を言おう」「いつも正直でいよう」など人を思いやる心、自分を大切にすることを育てることを目的としています。このようなことは本来家庭で教えておかなければならないことだと思うのですが、学校でも、何度でも子どもたちに伝えていかなければいけないと思います。

また、「続けるものを持ってほしい」という話の中で、東井義雄先生の「ほんものは続く、続けるとほんものになる」という言葉を紹介しました。東井先生が小学校の校長を退職された後、ある所で子どもたちにお話をされました。そのお話の中で、「ある女の子が小学校1年生の時から中学校卒業まで、お婆ちゃんのお世話をずっと続けている。それがその女の子の自慢になり、小学校5年生あたりから、その自慢が勉強の頑張りに広がり、中学校卒業間際にはすばらしい手紙を書いてくれる子になった。一つのことをずっと続けていると、他のことまでしゃんとしてくる。どんなつまらんことでもよろしいから、ここまで続けたという自慢話になるような自慢を育てていただきたい。簡単なことでいいんです。今まで続けてきた人は、さらにそれをどこまでも続けていただきたい」と言って、お話を締めくくられました。

私も式辞の中で、「玄関の履き物をそろえることでもいい。一日一つ落ちているゴミを拾うことでもいいですから、続けるものを持って下さい」と述べました。

本校では、今年度のめざす生徒像に「自信や誇りを持ち、やさしい心をもった生徒」を掲げています。あたり前のルールを守り、こつこつと物事を続けていく生徒になってくれることを願っています。

## 「人は人の輪の中で育つ」

阪神地区青少年補導委員連絡協議会研修会講話から

上記の研修会で、作家 寮 美千子(りょう みちこ)さんの「詩が開いた心の扉『空が青いから白をえらんだのです』奈良少年刑務所詩集」と題したお話を聞きました。一部ですが紹介します。

奈良少年刑務所で、受刑者に絵本や詩を使った情操教育の授業をしてほしいと頼まれた。人を殺すまで追い詰められてしまった人間の心を、詩だけの絵本なので解きほぐすことができるのか。無理だと思ったが、教官があまりにも優しく熱心なので引き受けることにした。

対象は、刑務所の中でも、まわりと合わせて作業ができず落ちこぼれてしまうような子10名。虐待などの様々な背景により心を開けない、そんな子ばかりだった。

月1回の半年(6回)だけ。はじめの2回の授業は絵本を読んでもらった。子どもに朗読してもらおうと自信を持つし喜ぶ。コスプレもして前に出て2人で読んでもらおうと拍手が出る。だんだんやる子が増える。とにかく安心できるようにした。ここは受け入れてくれる場所だと思おうようにした。

3時間目は、宿題で「何でも好きなことを書いてきて。どうしても書くことがなかったら好きな色について書いてきてね」と言って、書いてきた詩を朗読してもらった。

### 「くも」

空が青いから白をえらんだのです

これを書いたAくんは、薬物中毒の後遺症でろれつが回らなかった。自分に自信がないからいつもうつむいていて、早口で話す。朗読してもらおうと、何を言っているかわからない。何回か読み直してもらい、やっとみんなの耳に聞こえるように読んでくれた。みんなから大きな拍手が出た。するとAくんが手を上げて、たどたどしく話した。「ぼくのお母さんは今年で7回忌です。お母さんは身体が弱かった。お父さんはいつもお母さんを殴っていました。小さかったのでぼくはお母さんを助けてあげることができませんでした。お母さんは亡くなる前に『つらくなったときは空を見てね。私はきっとそこにいるから』と言ってくれました。ぼくはお母さんのことを思ってこの詩を書きました。」その時、話を聴いていた子たちから次々に手が上がり、「ぼくはこの詩を書いただけで親孝行やったと思います。」「ぼくはAくんのお母さんはきっと雲みたいに真っ白で、清らかな人だったんじゃないかなあと思いました。」「ぼくはお母さんを知りません。でもぼくもこの詩を読んで、空を見たらお母さんに会えるような気がしてきました。」と言ってそのままわーっと泣き出してしまった。

### 8月の主な行事

7日(木) 伊丹市少年補導委員連合会役員会・定例理事会  
8日(金) 県青少年センター所長一日研修会  
11日(月) 少年を守る日(市内広報・一斉補導)

19日(火) 伊丹市少年進路相談員連絡会  
20日(水) 三市(宝塚・伊丹・川西)合同補導  
22日(金) 神戸保護観察官駐在  
23日(土) いたみ花火大会  
26日(火) 有害図書回収(市内16箇所自ポスト)  
26日(火) 伊丹市少年補導委員全体研修会

### 「好きな色」

ぼくの好きな色は青色です  
次に好きな色は赤色です

これは土のかたまりのような顔をしたBくんが書いた詩。「あーどうしよう、ほめようがないな…」と思っていたら、意外なことに受講生から手が上がった。「Bくんの好きな色を1つだけじゃなくて2つ聞けてよかったです。」「2つも教えてもらってうれしかったです。」「Bくんは青と赤がほんまに好きなんやなあと思いました。」「こんなほめ方があるんだ。するとBくんが初めて微笑んだ。なんてかわいらしい笑顔。この日から彼はみんなと話ができるようになった。人の顔が見られるようになった。

授業を通して、「人は人の輪の中で育つ」のだと思った。自分たちと同じ仲間が共感してくれると本当に受けとめてもらったと実感する。輪の中にいて、一緒に話をしていくうちに感情が芽生える。みんながこう言っているから先生の言っていることも嘘じゃないと思う。そんな中で育っていくんだと感じた。

刑務所を出て戻ってきてもう人が6割近くいる。1回目の人が戻ってこなくなれば刑務所はガラ空きに、犯罪は3分の1位になると思う。そのためには、本人が癒やされ心の底から変わっていくこと、それを受けとめる社会があることの2つが必要だと思う。

### ◆街頭補導の件数 《平成26年7月》

	幼小	中	高他	大人	計
声かけ・会話等	381	88	79	75	623

遊びに関して	42	14	38	8	102
ぐ犯・不良行為	3	7	12	1	23
交通に関して	30	56	45	97	228
計	75	77	95	106	353

### ◆電話・来所相談の件数 《平成26年7月》

	電話相談	来所相談
件数	16	2
前月比	-4	-3
累計	63	13

### ◆自ポスト回収状況 《平成26年7月》

	数量	前月比	累計
有害図書	292	-8	2,871
有害AV	228	-83	
計	520	-91	

自ポスト設置場所(市内16箇所)

車塚公園・阪急篠野駅・南センター・阪急新伊丹駅・阪急伊丹駅・いたみホール  
荒牧バラ公園バス停・荒牧バス停・北センター・中野西公園・裁判所前・山田バス停  
女性児童センター・JR伊丹駅1F・JR北伊丹駅南口駐輪場・西桑津バス停

※「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市少年愛護センター(Tel: 780-3540)までお寄せください。